

(様式1)

## 令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

|            |  |  |
|------------|--|--|
| (1) 学校教育目標 |  | (1) 自学自習<br>(2) 規律ある自由<br>(3) 体力の増進  |
| (2) 現状と課題  |  | 「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、徳・智・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。年々、受け身の姿勢が強くなっていることから、主体的に学んでいく生徒を育てる体制を整えていく必要がある。また、高い志を掲げ困難に挑戦していくことができる生徒を育み、地域の重点校としての期待に応えていく必要がある。 |
| (3) 重点目標   |  | 1 確かな学力の育成<br>2 豊かな人間性と社会性の育成<br>3 キャリア教育の推進<br>4 重点校としての任務の遂行   |
| (4) 結果の公表  |  | 本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載する。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。  |

|        |            |
|--------|------------|
| 学校整理番号 | 9          |
| 学校名    | 青森県立弘前高等学校 |
| 全日制の課程 |            |

|            |                |
|------------|----------------|
| 自己評価実施日    | 令和3年 1月20日 (水) |
| 学校関係者評価実施日 | 令和3年 2月 8日 (月) |

|  |  |
|--|--|
| (9) -イ 学校関係者評価委員会の構成                       |  |
| 学校評議員(5名)<br>(有識者同窓生2名、有識者教育関係1名、元PTA役員2名) |  |

| 自 己 評 価 |               |  |   | 学校関係者評価    |  |  |
|---------|---------------|--|---|------------|--|--|
| 番号      | (5) 評価項目      | (6) 具体的方策  | (7) 具体的方策による目標の達成状況   | (8) 目標の達成度 | (9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等   | (10) 次年度への課題と改善策   |
| 1       | 確かな学力の育成      | 授業第一主義を徹底する<br>「字ひ」の姿勢と字習習慣を身につかせ、基礎学力の定着を図る<br>主体的に学び、深く考える授業を展開し、論理的思考力・応用力を育成する<br>生徒理解に努め、生徒との信頼関係の醸成を図る   | 研究授業及び互見授業を行うとともに、オンライン研修を受講することで教員の授業力を高めた。また、基礎学力を定着させ、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成するため、ホームルーム担任や教科担任による個人面談指導や補助教材による指導を行った。                   | A          | 授業に関しては、生徒と保護者からは一定の評価を受けており、望ましい結果となっている。また、これからは、オンラインによる授業の在り方も研究する必要があると考える。   | 生徒が主体的に学ぶように働きかけるとともに、基礎学力の定着及び生徒に深く考えさせることに重点を置く授業を実践している教員が多くなってきていることから、指導法に関する情報を共有していく。また、ICTを活用した授業についても研究していく必要がある。 |
| 2       | 豊かな人間性と社会性の育成 | 自主自律の精神を培い、基本的生活習慣を確立させる<br>知力・体力を養い、困難にも率先して立ち向かう気概を培う<br>部活動、自治会活動、学校行事、ボランティア活動を通して逞しい心と体を養うとともに、集団への帰属意識と利他主義を醸成する<br>伝統・文化を尊重する姿勢を育み、異文化への理解を深めさせる<br>他人の言動を理解し包容する寛容の精神を養うと共に、共生社会を創る思いやり・優しさを育む | 「規律ある自由」を基盤として、ホームルーム担任によるきめ細かな観察と個人面談を行った。また、コロナ禍の制約された中で、ねぶた制作や運行はできなかったものの、実施可能な諸行事に熱心に取り組むことで、自己有用感を感じたり、他者に対する思いやりの心を育むことができた。 | B          | 制約された状況だったが、実行できた行事や代替行事を通して、豊かな人間性や社会性が育まれていると考える。大変な中ではあるが、指導を継続してほしい。           | 次年度は、弘高ねぶたを核とした本校の人間教育を復活させるために、学校全体で制作・運行時の感染症対策を検討していくことが急務である。あわせて、様々な機会を捉えて、生徒を校外の活動に参加させることで、社会性の向上に努めていく必要がある。       |
| 3       | キャリア教育の推進     | 三年間を見通した一貫性のある進路計画を立案し実践する<br>「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぎ、社会へどのように貢献するか考えさせる<br>自分の能力、資質を活かせる大学学部の研究を行わせる<br>自ら進路を決定できる態度を育成し、決めた目標に進進させる  | 総合的な学習(探究)の時間における課題探究や学部学科研究、また、職業人講話等を通して、生徒が自己の在り方生き方の考察に主体的に取り組めるよう、教員の共通理解を図ることができた。今後も、三年間を見通した進路計画に基づき、キャリア教育を推進していきたい。       | B          | 高校卒業後の進路にとらわれるのではなく、生き方や働く意義をしっかりと理解した上で自分の将来を考えられるように指導してほしい。                     | 生徒が学校での学びと社会の接続を意識し、自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択できるように、特別活動や「総合的な探究の時間」の内容を一層充実させる必要がある。  |
| 4       | 重点校としての任務の遂行  | 県教育委員会の「施策の柱」等に応じて教育活動及び各種事業を実践する<br>医学を志す高校生支援事業の充実を図る<br>国の教育改革に応じて授業改善を図る   | 重点校として、本校が保有・蓄積してきた取組等の教育資源を基に、医学部医学科及び難関大学進学に向けた学習会を企画・運営し、他校の生徒や教員に提供することができた。  | A          | 感染症対策としてオンラインを活用しながら、様々な学習会を提供できたことは評価できる。引き続き各校が連携することで、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指してほしい。 | 重点校として、地域全体の生徒の学力向上と教員の指導力向上に向けて、感染症対策に取り組みながら、今後も学習会の企画・運営及び情報提供に努める必要がある。  |

|         |  |
|---------|--|
| (11) 総括 | 感染症対策に配慮しながら、学校教育目標に沿って計画的かつ効果的な教育活動が実践されている。しかし、生徒の自己実現に更に寄与していくためには、教員のキャリア教育に対する深い理解に基づく実践が不可欠である。今年度の評価結果を踏まえるとともに、改善を加えながら重点目標の達成を図っていく必要がある。 |
|---------|--|